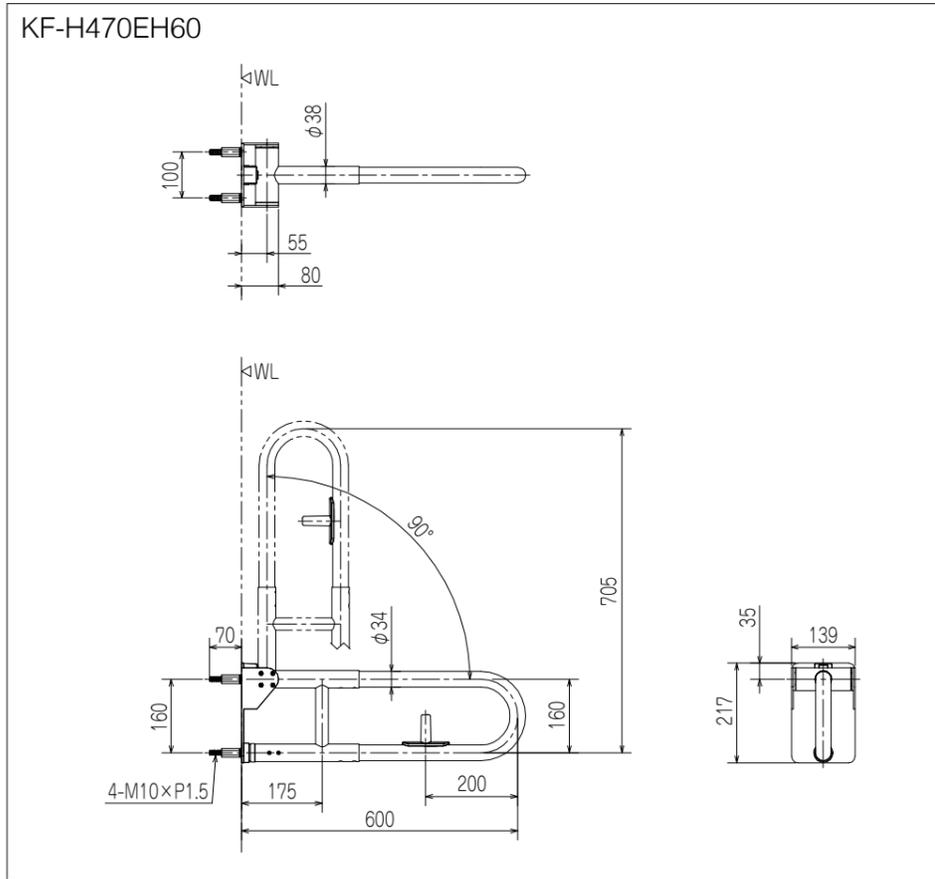


各種施設用手すり はね上げ式手すり

商品の機能が100%発揮されるよう、
本説明書の内容を十分ご理解のうえ
正しく施工してください。

KF-H470EH60

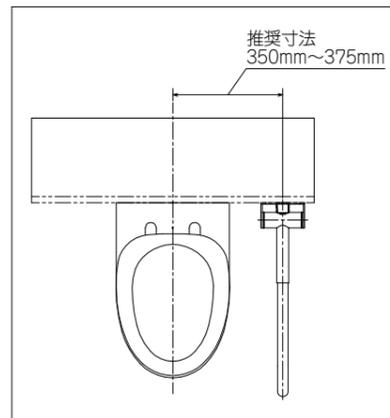
●商品図



落下事故防止のため、後述の「●固定方法」に従って、固定してください。

●施工前のご注意

- 取付前に、取付壁に突起や不陸がないことを確認してください。
- 油などの汚れが付着した手で手すりを握らないでください。
※汚れがとれなくなる恐れがあります。
- 手すり施工には別売の施工部材をお使いください。
- ライニングフレームにKF-D21(別売り)か厚み3.2mm以上の補強鋼板が強固に固定されていることを確認してください。
- 施工時にレバーを操作してロック解除をしないでください。
※取付部が急にはね上がり、破損やケガをする恐れがあります。
- レバーが下側にあることを確認して取り付けてください。
- 便器中心から手すり中心までの距離の推奨値は次の通りです。



●安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号の説明

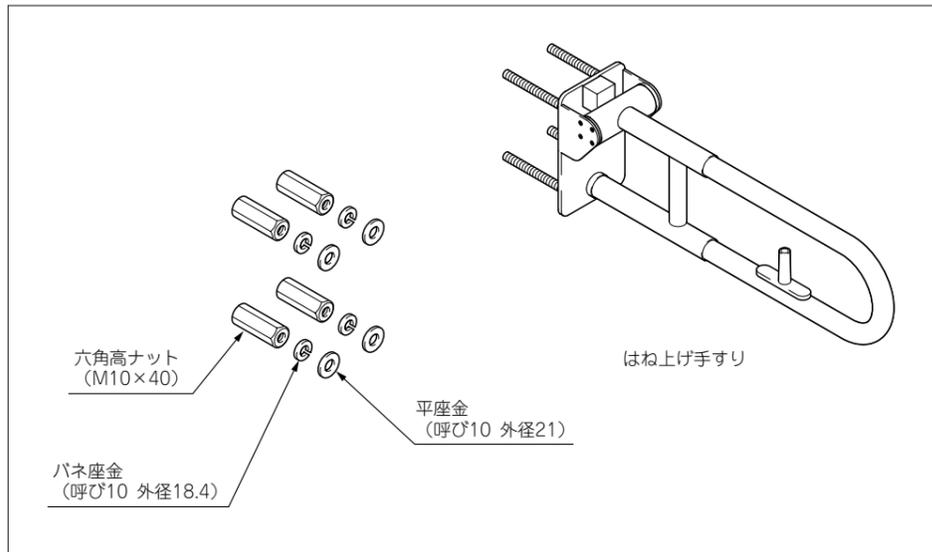
注意 …… 「取扱いを誤った場合に使用者が軽傷を負うか又は物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

 …… 「注意しなさい！」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

 …… 「してはいけません！」(一般的な禁止記号です。)

 …… 「指示通りにしなさい！」(一般的な行動指示記号です。)

●各部の名称

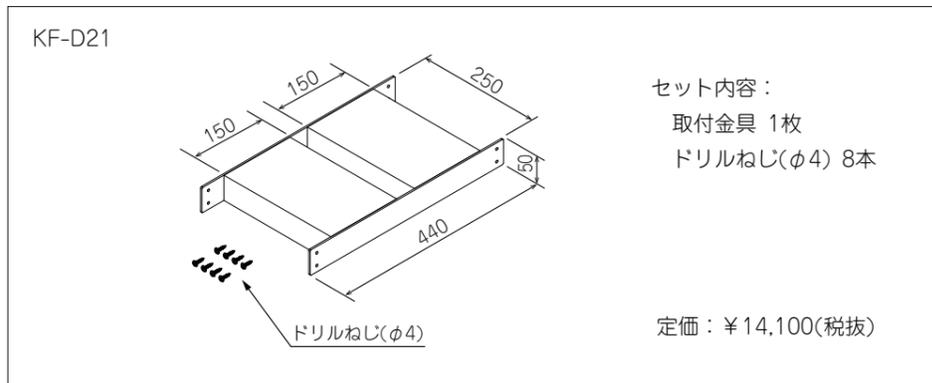


●施工方法

1. 現物あわせにて、取付位置を決めます。
※上部手すり芯が指定の高さ(一般的には650~750mm)になるようあわせませす。
※施工にはレンチをお使いいただき、本体を傷つけないようご注意ください。
2. 以下の「●固定方法」に従って手すりを壁に固定します。

●固定方法

施工部材は別売です。補強鋼板を現場手配しない場合は、下記を別手配してください。



⚠ 注 意

外れたり、ガタが生じないように、強固に取り付けてください。
※取付が不安定になり、落下してケガをする恐れがあります。 

必ず施工説明書の指示どおりに施工してください。
※誤った施工方法をされた場合、器具が外れ、ケガをする恐れがあります。 

浴室など手すりに直接水がかかる場所への取り付けはしないでください。
※取付壁の裏側に浸水し、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。
※故障し可動しなくなる恐れがあります。 

取付壁に突起や不陸がないことを確認してから施工してください。
※壁に突起や不陸があると、手すりの操作荷重が重くなったり、取付後のガタが発生する恐れがあります。 

±1度以上傾いた壁に施工しないでください。
※手すりをはね上げても勝手に下がってきたり、はね上がったりの恐れがあります。 

落したり、硬いものをぶついたりしないでください。
※商品が破損して、ケガをする恐れがあります。 

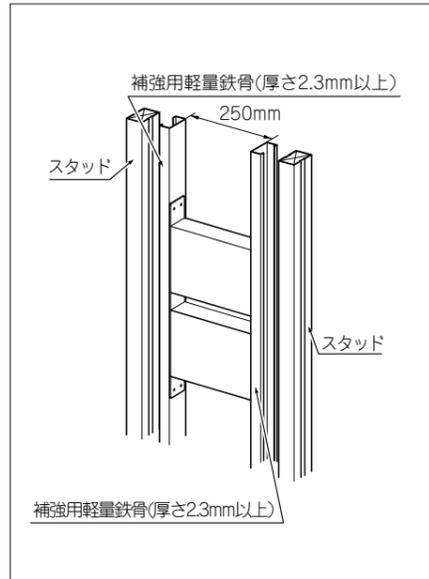
便器前方に横渡りで施工し使用しないでください。
※ロックレバーに手が届かなくなるなど、使い勝手が損なわれることがあります。また、万が一が手すりが不意に自重で降りてきた場合に頭に当たりケガをする恐れがあります。 

【ライニングフレームへの取り付け例】
はさみ込み固定 取付金具(KF-D21)使用の場合

施工部材 ・KF-D20 1セット	現場調達部材 (なし)
----------------------	----------------

1.事前に図のようにライニングフレーム(□50×t2.3相当以上の鋼製柱または、t=2.3mm以上の補強軽量鉄骨)を所定の位置に設置する。(現場手配)
※ライニングフレームの内寸が250mmになるように配置してください。

2.手すりの取付位置に取付金具をライニングフレームにドリルねじで固定してください。
※ドリルねじは取付金具に同梱されています。

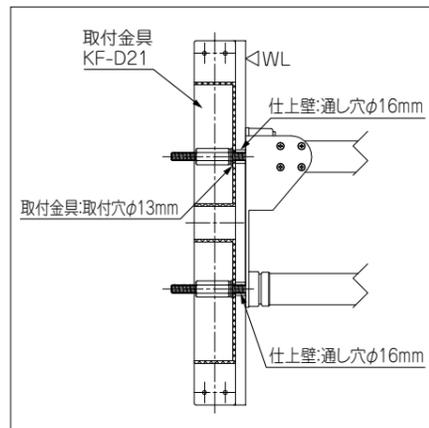


注意 ・取付金具を取り付ける場合は、補強用軽量鉄骨を内寸が250mmになるように配置ください。
・取付金具は必ず、厚さ2.3mm以上の補強用軽量鉄骨に取り付けてください。
※商品が外れたり、壁が壊れたりすることがあります。

3.手すりの取付位置に通し穴をドリルであけます。仕上げ壁はφ16mm、取付金具はφ13mmの取付穴をあけてください。

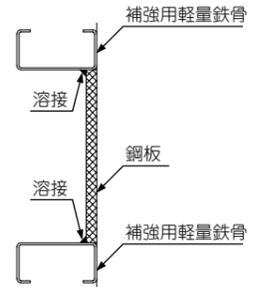
注意 下穴に残った粉は必ずきれいに掃除してください。
※強度が低下する恐れがあります。

4.通し穴にはね上げ手すりを差し込み、裏から平座金、パネワッシャーをボルトに通し、高ナットで強固に締め付けてください。



2.ライニングフレームに補強用軽量鉄骨を溶接し、補強用軽量鉄骨に溶接してください。

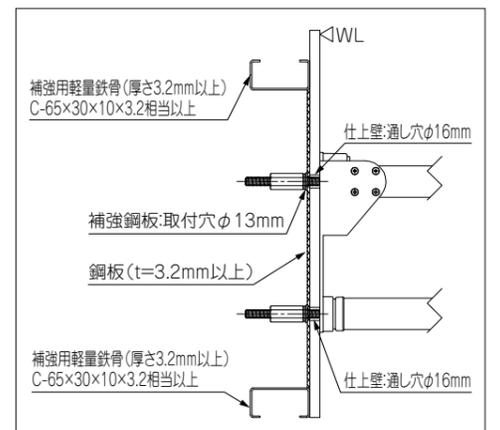
注意 鋼板は必ず鉄骨に溶接してください。
※強度が足りない恐れがあります。



3.手すりの取付位置に通し穴をドリルであけます。仕上げ壁はφ16mm、取付金具はφ13mmの取付穴をあけてください。

注意 下穴に残った粉は必ずきれいに掃除してください。
※強度が低下する恐れがあります。

4.通し穴にはね上げ手すりを差し込み、裏から平座金、パネワッシャーをボルトに通し、高ナットで強固に締め付けてください。



●施工後の作動確認

- 施工後、取付方向が正しいか及びスムーズに動作するかについて確認してください。(操作方法については同梱のシールをご覧ください。)
- 紙巻器にガタつきがなく、しっかりと手すりに固定されていることを確認してください。
- 同梱の操作方法シールを手すり付近の壁等、見やすい位置に貼付してください。
※このシールには安全上の注意点が書いてありますので、必ず貼付してください。

【ライニングフレームへの取り付け例】
はさみ込み固定 現場調達の鋼板を使用する場合

施工部材 ・なし	現場調達部材 ・鋼板(t=3.2mm以上、5.0mm以下)
-------------	----------------------------------

1.事前に図のようにライニングフレーム(□50×t2.3相当以上の鋼製柱または、t=2.3mm以上の補強軽量鉄骨)を所定の位置に設置する。(現場手配)

